当院における地域医療研修の実際について

社会医療法人明和会　中通総合病院
研修医一同

地域医療研修

- 2か月間の地域医療研修
  - 大曲中通病院（大仙市）
- 大曲中通病院での研修について報告する

大曲中通病院

- 診療科：内科、外科、皮膚科
- 病床数：一般60床、療養46床
- 患者数：外来170人前後/日

- 通所リハビリテーション（定員18人）
- ショートステイ（定員16人）
- 救急外来：24時間受付



研修目標

- 一般目標：
- 医師不足地域の小規模病院での勤務経験を通じ地域医療への理解を深め、かつ医師としての素養を高める。

- 行動目標
  - 1.限られた設備のなかでの診療能力を身に着ける。
  - 2.救急搬送を経験する。
  - 3.在宅医療の実際を知る。
  - 4.地域住民と対話する。

研修医の一日

	午前	午後	17:00～
月曜	午前外来　※１	総回診	放射線読影会 夕方カンファランス
火曜		救急外来	
水曜	午前外来　※１	救急外来	
木曜		往診	
金曜		救急外来 新患カンファランス	

※１　2か月目以降のみ

- 当直：2-4回/月　拘束：2回/月
- 地域住民への講演会、職員への医療講話会

夜間・当直体制

- 医師1人+看護師1名（+拘束）体制
  - 救急搬送等で医師不在の事態に備え、拘束医師1名がオンコールで自宅待機している
  - 緊急時の血液検査等に備え、検査技師1名が自宅待機している
  - 放射線検査（Xp、CT）は医師が撮影する（拘束もなし）
- 患者数：walk in 5-6名、救急搬送0-2件
  - 12歳未満の小児受付はなし
- ベッド満床、あるいは疾患によっては救急対応不可として搬送を断る場合もある

研修の特徴①

- 小規模病院である
  - 研修医は内科全般の症例を担当する
  - 循環器・脳血管疾患、緊急手術を要する症例は他院へ転院搬送する
- 外来や往診を一人で行う
  - 午前の内科外来、午後の救急外来は基本的に一人で検査治療を進めていく（相談は常時可）
  - 救急搬送の許諾や入院適応について研修医が判断
  - 往診は初週のみ上級医が同行し、以降は研修医と看護師のみで行う

研修の特徴②

- 夜間・休日の検査体制が不十分である
  - 血液検査は拘束検査技師を呼び出す必要がある（車で30分以上かかる場合もある）
  - 放射線技師不在のため、医師がレントゲン・頭部CTを撮影する
- 毎日の夕方カンファランス（16:30～17:00）
  - 当日撮影したレントゲン・超音波・CTを読影する
  - 当日外来で診療した患者のカルテをもとに、上級医と一緒に確認する
  - 入院患者の疑問点、治療方針について相談する

実際に研修を終えて

地域医療研修での収穫

- 受け持ち症例は多岐にわたる
  - 老衰、脳梗塞、脳出血、心不全、肺炎、糖尿病、麻痺性イレウス、腸炎、気胸、膵炎、胆嚢炎、糖尿病、認知症、尿路感染症、不明熱、多発性骨髄腫等
- CV挿入、大腿動脈採血、胃瘻造設等の手技を再確認できる
- 他院への救急搬送の判断、救急車への同乗を体験できる

今後の検討課題

- 切実な人員不足
  - 常勤医6人で入院患者100名前後、外来170名前後をみなくてはならない
  - 各科専門医の応援体制が必須
  - コメディカルの人数もぎりぎり
- 急性期のみの治療では終わらない
  - 1人暮らし、老々介護、入院に伴うADLの低下のため、すぐに自宅に戻れない人が多い
  - 経口摂取ができなくなった人に、胃瘻や経鼻胃管をして退院することも多い
  - 往診、訪問看護等の充実が必要